

信用格付を付与するために用いる方法の概要（ソブリン）

ソブリンの信用リスク分析アプローチは、ソブリンの債務に対する支払能力と支払意思に関する定量的判断と定性的判断を統合したものである。

フィッチによるソブリンの格付分析では、以下の4つの分析上の柱を重視している。

- ショックに対する脆弱性を左右する経済の構造的特性。金融セクターがもたらすリスクのほか、政治リスク及びガバナンスに関わる要因が含まれる。
- マクロ経済に関する実績、政策及び見通し。成長見通し、経済の安定性並びに政策の一貫性及び信頼性が含まれる。
- 財政。予算収支、公的債務・財政資金調達の構造及び持続可能性並びに偶発債務具体化の可能性が含まれる。
- 対外資金調達。経常収支、資本収支、対外流動性の安定性並びに公的及び民間対外債務の水準と構造が含まれる。

これらの柱の中では、ソブリンの信用力への重要性を反映して、構造的特性に最も重きを置かれることが多く、ソブリン格付モデルにおいても最も重視されている。他の柱のウェイトは、通常比較的低いが、危機的な状況等においては、異なる場合もある。

ソブリン格付モデルは、格付基準に記載されている主要な格付要因を評価し、外貨建て長期発行体格付の尺度でスコアを表示するもので、通常ソブリン格付を付与するための始点として利用されている。個別の格付では、このモデルのアウトプットに、モデルで十分反映されていない要因に対して調整（Qualitative Overlay）を加える。

ソブリンの長期債に対する格付は、債務のデフォルトしやすさについての評価とデフォルトの際の債権者の潜在的な回収についての見通しを考慮する。

本格付方法の詳細については、「Sovereign Rating Criteria」（2026年4月27日付）をご覧ください。